

3. 広葉樹材の現在の一般的な用途【調査結果】

広葉樹材には様々な用途があります。構造材（柱、土台など）、家具材、内装材（床材、壁材など）、建具材、木工品、薪炭材、しいたけ原木、チップ材などとして利用されてきました。

それぞれの用途に応じて、必要な直径や木材の単価は変わります。用途ごとに必要な直径²⁾、用途ごとの流通単価、しいたけ原木、チップ用素材価格を下表にまとめました。

小径木が利用される、しいたけ原木（一般的に15～20年生、径6～14cm、長さ90～100cm）は、東日本大震災以降、価格が上昇しており、チップ用素材価格も上昇傾向にあります。また、薪材は飲食店やアウトドア用を中心に需要が高まっています。用材として使えない場合は、チップ材や薪材として利用するなど、全ての材を利用して、資源の有効活用が図られています。

かつては欠点のない通直な材が求められましたが、最近ではあえて節あり材が求められたり、曲がり材や変色材なども個性の一つとして認められるようになってきました。

広葉樹材において、用途に応じた伐採林齢の目安については、樹種や生育場所、個体により成長量が大きく異なるため一概には言えませんが、コナラの胸高直径50cmは100年、クリの胸高直径50cm以上は100年以上、サクラの胸高直径50cm前後は50～60年、ケヤキの胸高直径70cmは170年という報告もあります³⁾。また、市場関係者の方は、トチノキ、ナラ、サクラは直径70cm程度の大径木になるまでに200～300年かかると言われていました。



しいたけ原木



製品市場（株式会社 菅生銘木市場）

用途ごとの必要な直径及び原木単価

用途	必要な直径 (cm)		原木単価 (m ³ あたり)				
			トチノキ	ナラ	クリ	サクラ	クヌギ
チップ材	-		9,500円 ※1				
しいたけ原木、薪	6～14	小径材	-	しいたけ原木 30,081円 (346円/本) ※2	-	-	しいたけ原木 27,843円 (368円/本) ※2
床材、壁材、集成加工材、木工品、玩具	14～30	中径材	3～5万円		3～4万円	4～5万円	
内装材、建具、家具、板材	30～	大径材		(ミズナラ) 10万円	5～8万円	5～8万円	
突板 (板目材)	40～			(ミズナラ) 40～50万円	15～20万円	20万円以上	
突板 (柾目材)	60～						
天板	70～		(空なし) 15～30万円 (空あり) 30～100万円				

※1：農林水産省「令和3年木材需給報告書」

※2：農林水産省「令和3年度特用林産物生産統計調査」

※1, ※2以外は令和4年1月岐阜県の市場関係者からの聞き取り結果